キウイフルーツかいよう病の見分け方

病害虫部

1　背景、目的

平成 26 年に本県で初めて確認されたキウイフルーツかいよう病新系統（Psa３）による病害を発症すると葉に褐色の斑点が現れ、樹体が枯死することもあります。早期発見と早期防除が最も有効な防除対策ですが、類似した症状が多く、診断の妨げとなっています。

そこで、生産者が本病と類似症状を識別し、本病を早期に確認して防除対策をとることが可能な見分け方チャートを作成しました。

2　成果の内容、特徴

1）枝からの樹液漏れ、芽枯れ、新梢枯死の症状については、周囲の発生状況を加味すれば、類似症状との識別は可能です（図１）。

2）本病の典型的な症状は、葉脈の囲まれた小褐斑で、枝の基部から 10 葉までに多い傾向です。銅剤や除草剤による薬害も見分け方チャートで確認可能ですが、識別困難な場合は分析機関での診断が必要です（図２）。

3）本見分け方チャートは農林水産省 HP「キウイフルーツかいよう病の Psa３系統の防除対策マニュアル（第３版）」に掲載されており、無料ダウンロードが可能です。

http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/attach/pdf/index-17.pdf

３　主要なデータ・画像など

かいよう病症状	 ※樹液が赤褐色。		
類似症状	 裂傷から出た樹液に異なる菌が繁殖。 ※樹液が赤褐色ではない朱色。	 霜害による芽枯れ。 ※周囲の芽は健全である。	 害虫の食害による新梢枯死。 ※周囲に虫ふんや食入孔がある。

図１　春のかいよう病症状（上）と病徴や周囲の発生状況で識別が可能な類似症状（下）

かいよう病症状		
類似症状	 角斑病菌	 花腐細菌病菌

図２　春から初夏のかいよう病症状（上）と病徴や周囲の発生状況で識別が困難な類似症